

夜間頻尿のうち、今回は「膀胱の蓄尿障害」のお話です。

過活動膀胱で蓄尿障害に

蓄尿障害とは、膀胱に尿をたくさん貯められなくなることです。原因の多くは尿が膀胱に十分たまる前に尿意を感じる「過活動膀胱」です。

夜間頻尿のうち、今回は「膀胱の蓄尿障害」のお話です。

ドライブ中に急に尿意を催してコンビニに駆けこんだり、映画のヤマ場なのにトイレに行くために退席したといった経験はありませんか？ そんな方は過活動膀胱が疑われます。

過活動膀胱は実はお子さんにも多く、「うちの子はなかなかトイレに行かないのにおしっこを漏らす」といった悩みを聞くことがあります。

原因に前立腺肥大症も

蓄尿障害の原因としては高齢男性のほとんどに認める「前立腺肥大症」も考えられます。肥大した前立腺が尿道の抵抗を増加させて次第に排尿が困難になり、残尿感や頻尿などの症状が悪化し、結果として蓄尿障害の原因になるわけです。

まず運動と訓練を

過活動膀胱の治療としては、薬物治療の前に「骨盤底筋運動」と「膀胱訓練」が有効な場合があります。前者は尿道や

前立腺肥大症を認める男性の過活動膀胱の場合、初期治療としてα1ブロッカーやPDE5阻害薬などの前立腺肥大症の治療を行い、それでも症状が改善しない時はβ

肛門、女性は膣を引き締めたり緩めたりする運動です。後者は尿意を感じてもすぐに排尿せずに、少しずつ排尿間隔を延ばしていき、膀胱に貯まる尿の量を少しずつ増やしていくというものです。

また、肥満の方は食事の管理や運動によって体重が減ると過活動膀胱の症状も改善することがあります。

薬物療法も有効

〈泌尿器科・内科〉
いしい腎泌尿器科クリニック
 ☎023-616-3601 山形市桜田西4-17-49

●診療時間
 午前/9時00分～12時30分
 午後/14時30分～18時00分

●休診日
 木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

泌尿器講座

夜間頻尿 ④



いしい腎泌尿器科クリニック院長
石井 達夫

●(いしいたつや)1999年(平成11年)山形大学医学部卒業。同大附属病院、市立病院済生館、公立置賜総合病院勤務などを経て2020年5月いしい腎泌尿器科クリニックを開業。医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、日本医師会認定産業医。

3作動薬や抗コリン剤などの薬物を投与します。

女性の過活動膀胱は薬物治療が効きやすく、感謝されると医師冥利にすぎます。

いつもありがとうございます

お大事に